

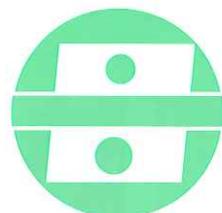
＊ 全国 ＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊ 第10号

母親クラブだより

「みんなで育てる地域の子」—みんな仲間よ母親クラブ—
<http://www.hahaoya-club.ne.jp/>



- 全国大会・総会報告
- ブロック別研修会報告
- 活動報告
- 会長新春挨拶
- 行政だより
- 関係団体紹介
- 名称変更に関して
- 事務局だより



全国母親クラブ連絡協議会

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-1-10F
財団法人 児童健全育成推進財団内

TEL. 03-3797-8183～4 FAX.03-3486-5142



※※表紙の写真を募集しています。日々の活動や催事など、全母協事務局までどしどしご応募ください。※※

各ホームページアドレス

●厚生労働省 <http://www.mhlw.go.jp/> ●財団法人 児童健全育成推進財団 <http://www.jidoukan.or.jp/index.html>

全国大会・総会報告

あいにくの雨模様で富士山が見えなかつたのが、とても残念でした。

二日の二日間、静岡県女性総合センター「あざれあ」にて、全国の皆さんをお迎えして盛大に開催されました。

● 第1日目：六月二十日(木)

開会にあたり、北井静岡県副知事の歓迎のあいさつに続き、藤田こども未来財団専務理事、鈴木光児童健全育成財団常務理事の方々のあいさつをいただき、長年活動を続けてこられた方々の表彰式が行われ、その労をねぎらわれました。それから本田厚生労働省雇用均等・児童家庭局育成環境長の行政説明がありました。

講演とフォーラムは次のとおりです。

【講演】テーマ「心をことばにのせて」

講師 言語聴覚士 中川信子氏

ことばかけが多くても、少なくとも、ことばと子どもの成長は様々で、親子関係が希薄になっている現在おとな姿勢やことばかけのノウハウも、ひとり人それぞれ違う、悩の働きに大きく関係があると言い、心良いひびきを脳に与える中で発達することの大切さや昔の諺の意味を考えなおしてみてはどうかとも話されました。

【対談】テーマ「どの子にも夢と希望と輝く未来」～大事な命と向かい合おう、みんな違つてみんない～

対談者 中川信子氏・杉本忠重氏・水野薰氏

それぞれの立場から、命は自分ひとりではなく四十億年の歴史があり、つながっていることや、幼児が赤ちゃんと誕生にかかわって命の大切さを体験したり、家族が愛を確かめ合つて生きていることなどから話を

広がり、それぞれの貴重な意見の交換で大変有意義な対談でした。

【意見交換会】静岡県の会員の手作りによる「大型布絵本（淨瑠璃姫と義経）」の公演でオーディンゲし、終始なつかな楽しい交流会ができ、親交を深め合いました。

● 第2日目：六月二十一日(金)

総会の後ワークショップで環境問題に取り組みました。

【ワークショップ】テーマ「多彩な海藻が語る地球環境」～海藻おしばハガキを作る！

講師 海藻デザイン研究所代表 野田三千代氏

駿河湾に関するビデオを見て、海の中にも海藻の林があり、種類も四百種という世界一豊かな海を持っていることを知り、あらためて感激しました。その後、海藻を使つたおしゃばガキとしおりをつくり、より認識を深めました。

ご支援ご協力くださいました関係者およびご参加くださいました全国の皆様方に、心より厚くお礼もうしあげます。本当にありがとうございました。

記 飯野 紀代子



ブロック別研修会報告

【北海道・東北・関東・ブロック】

去る九月六、七日の両日、宇都宮市において、たくさんの皆さんの参加と協力を頂き、ブロック研修会を開催する事ができました。

初日は、開会の挨拶の後「思春期ゆれるとき」と題して、丸山隆先生（栃木県教育研究所相談部長）より「思春期とは親によって作られた価値観、考え方を作り直す時期である。人の心を育てるには、一我慢する力をつけさせる」「子どもたちの居場所を意識的に作つてあげる必要がある。」との講演があり、後半では会場からも参加し、地域で子育てする事の大切さを、即興劇で演じていただき大変好評を得ました。

フォーラムでは、「あなたの笑顔はわたしの笑顔」をサブテーマに、子育て真最中の母さん、お父さんそして、地域で子育ての協力をしている先輩お母さんの立場から、子育ての現状を話していました。また、丸山先生からのアドバイスを交えながら、会場からも子育てについてのたくさん意見が出て、広がりのある会場参加型のフォーラムとなりました。

二日目は「伝えあう子育て」をテーマに、三分科会に分かれ、ブロック大会ならではの各地の活動の様子が活発に紹介されました。県組織未結成の県からの活動のポイントの質問に、数々の経験談を交えながらのアドバイスがあるなど和やかな雰囲気の中、三世代交流の大切さ、「方通行でなく対面通行の交流を心掛ける事、他団体とのネットワーク化等を通じての地域に根ざした活動の重要性が話し合われました。

開催県の活動報告では、発足四年目の栃木市チャレンジ母親クラブが、活動の足跡を振りかえりながらこれまでの頑張りを力強く発表し、地域の中でよりネットワークを広げ、思いやりのある豊かな人間関係を育んで行きたいと結びました。

この研修会で得た笑顔を、多くの地域、新しい仲間へ広げて行きたいと思います。記 前田 洋子



【中部・近畿・ブロック】

～クオリティー・オブ・ライフ～地域二世子育て支援者研修会

基本研修とフォローアップ研修をセットにした今回の研修は、四人の講師による講義に、アイディアおもちゃづくりの実習が加わった楽しく実のあるプログラムでした。

● 基本研修

九月十九日 山口県児童センター（山口市）～テーマ「あなたもやれる 地域二世子育て支援ボランティア」

講師 木原孝久先生（わかる福祉ネットワークリ主宰）

持てる力の活用「子育て力の再生」を。人は「自立したい」という心を持っている。お互いが資源になり合つて「セルフヘルプ」を誕生させる。

二、テーマ「子どもの心身の発達と健康」
講師 小山一宏先生(学校法人 与野愛仕幼稚園理事長)

子どもの成長過程に応じて、子どもをとりまく大人たちは、「その時にやらねばならないこと。」「その時だったらできること。」「その時やつはならないこと。」を判断しながら対応する。

● フォロー・アップ研修
十月四日 講義と実習

一、テーマ「多様な子育て支援活動の実際」
講師 土屋美恵子先生(NPO法人「保育サービスひまわりママ」理事長)

行政で対応できない部分産褥期のサポート、親子で立ち寄れる「ひまわりルーム」

運営等。幼稚期に向き合ってくれた人がいるかいないかが、子どもの将来に大きく影響する。

二、テーマ「児童館における子育て支援の現状とボランティアの役割」
講師 石井妙子先生(東京都 神谷南児童館館長)

初めての子育てママは、生きた情報を求め、時には愚痴を聞いてもらいたい。児童館は、そんなママ達の「一々に応える場所だ。最後に、牛乳パックのキャラクターおもちゃと、ペットボトル一本に水を入れてくつつけたドボ・ドボーンを作成し終了。

記 重田 強子



【中国・四国・九州ブロック】

夏まつ盛り、猛暑の中、平成十三年七月二十六・二十七日の両日、北九州市「小倉リーセントホテル」に於きましてブロック別研修会が開催されました。

一日目は、主催者側から、現在の子どもたちのおかれている現状をふまえ、それに對し各方面からの意見を交えながらの開会のあいさつがありました。次に行政説明があり、深刻にせまりくる少子化、増大現象にある幼児虐待などに対する行政としての政策が話されました。

講演は「二十世紀を託す子どもたち」

北九州市博覧祭二〇〇一年市民パビリオン副館長 寺坂カタエ先生。福岡で初めての女性校長として活躍された方です。とても八十歳とは思えない、全身からパワーあふれるエネルギーな肝っ玉母さん。両親に上手に誉められ、あたたかく育てられ、苦手意識を持つ事なくヤル気をもつて楽しく過ごした少女期、それが原点となり教職を選び、現在に至っていると、笑いを誘いながら、納得いくお話をしました。博覧祭で市民一口基金で市民パビリオンを立ちあげられたという事にも、驚きと感銘を受け、何事もやり抜いていかれるすごいパワーを感じました。会場からも割れんばかりの拍手の中で、なごりおしいお話をでした。

二日目は、分散会、北九州市母連の「母親クラブ活動」の状況報告がありました。分散会は、「地域の中での母親クラブ」という同のテーマで三分散会に分かれて話し合いました。

一百間の研修を通して私の心に残つた事は、子じもに对する「言」句がその子の人生に大きな影響を与える」という事と、親が子を見ている以上に子は親(大人)がどんな事をしているのかしつかり見ていくという事、親(大人)も見られているという意識の中で、心に余裕を持ちながら共に成長していきたいと思いました。

開催地、北九州市母連の皆様、二日間心暖まるもてなしをしていただきありがとうございました。有意義な研修ができました。

記 赤木 久美子

北海道・東北・関東
ブロック活動報告

全国母親クラブ活動報告

全国母親クラブ活動報告

北海道・東北・関東
ブロック活動報告

親子及び世代間の交流
文化活動

宮城県母親クラブ連絡協議会

県内各クラブの活動の中から、報告させています。

● 小学校行事へ参加

小学校低学年の学校行事「ふるさとのお話を聞く会」に是非!と声をかけて頂いたのがきっかけで、町の地名に由来する代表的な民話「牛飼長者」を絵話にし、参加したのが始まりでした。

低学年の児童は目を丸くして見入っています。子ども達に「家で、むかし話をしてもらつますか」とたずねても、返事はありません。

むかし話の最後は、心やさしい者が必ず幸せをつかみます。

時代は変わつても、人の気持ちに変わりないことを、ふるさとに伝わるむかし話を通して、子ども達に語り継いで行きたいと考えています。

● 家庭・地域をつなぐ母親クラブの「かあさん」

お母さんの手つなぎ活動ということで、地域のお母さんが主体となつて、週二回の定例会を中心にして、活動を進めています。



私達の上演に対し、子ども達はシーンとなり、そして、可愛い声、ときには笑い声など、反応がスゴイのです。私達も名優になった気分です。帰り際に、輝く瞳で「また来てね」何よりの励ましです。

これからも、横のつながりを大切にし、ゆとり・勇気・ユーモアをもつて子ども達の健全育成に「わ」を広げたいと思つてます。

記 菊地 千恵子

私達の不慣れな手品を見て、不思議そうにして、目を輝かせています。紙芝居も特別に大きく作り、ああでもないこうでもないと言いながら色付けをします。

私達の不慣れな手品を見て、不思議そうにして、目を輝かせています。紙芝居も特別に大きく作り、ああでもないこうでもないと言いながら色付けをします。

私達の不慣れな手品を見て、不思議そうにして、目を輝かせています。紙芝居も特別に大きく作り、ああでもないこうでもないと言いながら色付けをします。

私達の不慣れな手品を見て、不思議そうにして、目を輝かせています。紙芝居も特別に大きく作り、ああでもないこうでもないと言いながら色付けをします。

**中部・近畿
ブロック活動報告**

児童養育に関する研修活動

新潟県地域組織活動連絡協議会

二〇〇一年十一月十五～十六日にかけて、冬を迎えるばかりの新潟県で、事実上旧ブロックの「お別れ研修会」が開かれました。

南北に長がい県なので、会員が集うのに大きなエネルギーが必要だということを体験していただきたくて、会場を南北二箇所にしてみました。バスでの移動は県外参加の方々には大変だったと思います。しかし、アツと言ふ間の二時間になつたのも、移動バスでのプログラム「バスプロ」にあつたと言います。

車酔いの子も自分から参加した「バスプロ移動研修会」では、車酔いを忘れていたと言います。参考になれば幸いです。

もう一つの大きなテーマ「どの子にも夢と希望と輝く笑顔」には『絵本』をとり上げてみました。

近年話題になつている中学生の保健室通いの子は、幼い時に親から「絵本を一度も読んでもらつた経験がない」と言うそうです。そんな子達に、今更と思いながら絵本を何回か繰り返し読んであげると「優しく温かい気持ちになれるような気がする」と言つてくれて「親になつたら我が子に絶対絵本を読んでもらう！」と可愛いことを言うそうです。

今回の研修会は、志茂田景樹氏によ

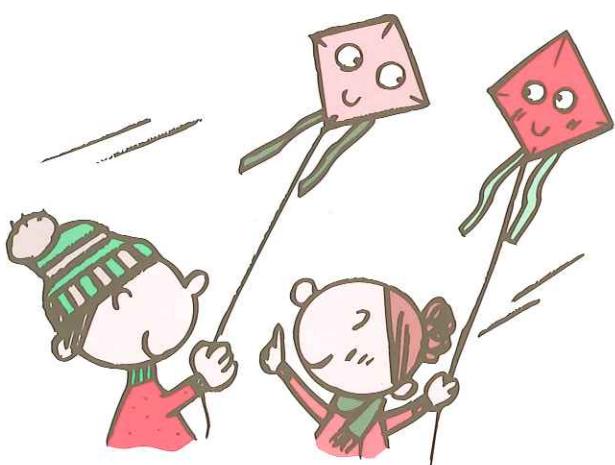
る大人向けと、地元の小学生対象の二本立ての講演会を、二日間にわたって体験することができました。

演題「親と子の心のかけ橋」で、絵

本を通して伝えることが沢山あること、ワクワクドキドキの豊かな心を親子で確かめ合うのも絵本からと、多くを教えていただきました。

新しい試みの研修会では、一時間のバス移動で長がい新潟県を体験して、澄み切つた空気の里山会場「これども自然王国」に移り、夜は温泉につかり・星空を仰ぎ・早朝のフィールドワークでは冰雨に濡れ・虹を見たりと、都会では味わえない大自然から沢山の贈り物をいただきながら、無事終了致しました。

記 漆山 和子



親子及び世代間の交流・文化活動

岡山県母連 玉島母親クラブ

**中国・四国・九州
ブロック活動報告**

親子及び世代間の交流・文化活動

倉敷市の西南に位置する玉島児童館

の近くには、若き日の良寛和尚が十八年間にわたり修行した円通寺がありまます。三つの母親クラブが、玉島児童館を拠点に活動しています。

おしゃべり大好き、元気印をモットーに、子ども達に負けないように賑やかに、母親クラブの活動に、児童館のお手伝いにがんばっています。

年間行事で取り組んでいる活動は、

親子ふれあい講座で、「もちつき」「アイススケート教室」「エアロビクス」等を計画しています。その中で特にエアロ

ビクスは、大人（二十～四十歳）、子ども（小学生）、親子（三才児と母親）の三コースに分けて実施しています。平成九年から始めましたきっかけは、母親達のコミュニケーションとシェイプアップをめざしたものでした。でもなかなか指導者が見つからず、見つかった時はみんなで大喜びしたのでした。親子の部で、元気に動き回っている子ども達の笑顔は、とてもかわいいです。ミッキー・マウスの曲に合わせて準備運動をしてから、お母さんの温かい胸に抱きしめられたり、ピヨンピヨンはねたり、脚や手を上げたり、とてもうれしそうです。

「下に妹や弟がいると、この子と一緒に遊ぶ機会も少なく、自分の体を動かすこともなかなかできません。」と

か、「大きな声を出して動き回ることは楽しいです。」とか、お母さん達に好評です。役員もじつと見ていてる訳にもいかず、下の子ども達と一緒に「ヨイシヨ！」「フー、きついね。」と言いいながら、ハッスルして動いています。エアロビクスは、いい汗がかけて子どもと楽しめます。疲れて寝た子どものかわいい寝顔をゆっくりとながめることは、ゆつたりとした生活を求める中で、とつても大切であると考えます。

このような親子のふれあい講座を、これからも色々と計画して行きたいと思つております。



心 輝いて しつかりと 生きよう
会長新春挨拶



会長
飯野 紀代子

新年あけましておめでとうございます。
皆様方におかれましては、お健やかに新しい年を迎えることと、心からお慶び申しあげます。

旧年中は大変お世話になりました、心より厚くお礼申しあげますと共に、本年も相変わらず、ご指導ご協力いただけますよう、よろしくお願ひいたします。

今、世界は激しく動いており様変わりをしております。情報は即時に地球を駆け巡り、話し合う間も無く、個人の意見が先行していきます。
こうした社会の中だからこそ、地域や家庭での母親クラブの役割は重大です。こどもたちには、共に生きる思いやりと、社会の荒波に流されないしつかりとした考え方や芯の強さを育てて欲しい。そのためには母親クラブは、こどもたちとどう向き合うのか、そんなことをテーマに活動を広げたいと思います。

また、母親クラブをいつも温かく見守ってください、「指導」支援いただいております、厚生労働省、こども未来財団、健全育成財団、全母協事務局、各地域の皆様方に心から感謝しつつ、その幸せをかみしめながら、今年も頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願ひ申しあげます。

行政だより

平成十四年度
児童健全育成対策関係予算案の概要

厚生労働省雇用均等・
児童家庭局育成環境課

はじめに

少子化が急速に進展する中、我が国社会を安定させ、経済を活力あるものにするためには、子どもの幸せを第一に考え、児童の健全育成を図ることが重要です。また、安心して子どもを生み育てることができ、女性がその能力を十分に發揮することができる社会環境を整備することが求められています。

そのため、多様な子育てニーズに対応し、仕事と家庭の両立支援策等を拡充するための新エンゼルプランを積極的に推進し、子育て家庭の支援を図ることとしています。

平成十四年度予算案の概要
それでは、育成環境課の所管する平成十四年度の児童健全育成対策関係予算案の概要についてお伝えします。

一、放課後児童健全育成事業の充実

「仕事と子育ての両立支援策の方針について」(平成十三年七月六日閣議決定)を踏まえ、事業の一層の促進を図るため、新エンゼルプランよりも上乗せを行い、引き続き事業の普及を図り、実施か所数を増加させます。

(一万クラブ→一万八百クラブ)

また、小規模クラブ（十人以上二十人未満）について、その設置を促進するため、過疎地等の要件を撤廃します。さらに学校週五日制に対応するため、土、日曜日、祝日の開設日数が、年間で一定の基準を超えて開設する放課後児童クラブに対し補助を加算することとし、土曜、日曜等の開設を促進します。

二、児童館の整備

地域の子育て支援や中・高生等の年長児童の活動を援助する機能等を備えた児童館の整備の促進を図ります。

三、民間児童厚生施設等活動推進等事業費

民間児童厚生施設等が行う文化活動、創作活動、体力増進活動等の活動に対して事業費の助成を行います。

(二) 民間児童厚生施設等活動推進事業費

○民間児童館地域活動推進費
従前のメニュー事業に年長児童等来館促進事業等を新たに追加するなど、事業の一層の推進を図ります。

(五事業 六事業)

○児童福祉施設併設型民間児童館事業
民間の児童福祉施設に児童館を併設し、児童福祉施設の養育機能を活用した事業を実施します。

(二十六か所→四十五か所)

(二) 地域組織活動育成事業費

児童館等を拠点に地域組織が行う地域組織活動（親子及び世代間の交流・文化活動、児童養育に関する研修活動並びに児童の事故防止活動等）の推進を図ります。

また、近年、子育てサークルや子育て支援NPO（民間非営利組織）の活

動が増加していることに伴い、幅広い地域組織への活動の支援を行います。（五千十七か所→五千六百四十四か所）
四、児童環境づくり基盤整備事業
都道府県又は市町村の地域の実情に応じた児童環境づくりの基盤整備を促進します。

その他

昨年、大阪府内の小学校において、児童が殺傷される事件がありました。

事件の発生予防のため、都道府県等に対し、施設職員の協力・管理体制、警察等関係機関との連携を図り、保護者及び地域の関係団体等の協力も得て、一体となって安全確保に努め、万が一、事故が起きてしまった場合には、迅速かつ的確な対応が図られるよう連携体制等の確保をお願いしております。

また、近年、公園等に設置されている遊具での事故が報告されていることを受け、児童福祉施設等に設置された遊具における事故の実態調査を行い、その調査結果を市町村等に対し、周知するとともに、一層の注意喚起を行ひ、遊具における安全の確保等をお願いしているところであります。

今後につきましても、地域の実情に応じて、母親クラブによる児童遊園等の安全の確保のため、見回り等のご協力ををお願いします。

地域における子育て支援を推進するためには、子育て家庭と地域社会を結ぶパイプ役である母親クラブの皆様方のより一層のご活躍を期待しております。

関係団体紹介

全国の読書ボランティアのご協力を得て「読書推進運動」を開催

財団法人出版文化産業振興財団 中泉 淳

龍博正理事長、略称・JPIC)は、「出版文化産業に係る生涯学習の推進」

を主な事業目的に、平成三年三月に通

産大臣の許可のもと、設立されました。

事業目的に添ったさまざまな活動を行なっていますが、その中でも大きな柱に「読書推進運動・読者育成」があります。これは、出版業界や一部の熱心な方々のご協力のみで成果が上がるものではなく、どれだけ多くの仲間をつくり、「広い地域で、永く継続的に」展開できるかが課題と考えております。

そうした考え方から、主に以下のよう

JPICでは、全国の熱心な「読書推進運動実践者」とのネットワークを構築し、その数は全国四七都道府県一万名にも達しました。この方々のご指導とご協力のもと、全国の幼保・小学校・中学校・高校・書店などの読書推進運動を「広域にわたり」・「組織力を駆使し」・「自治体や各種団体、出版業界等との協力で」新たな読書推進運動を開催しています。

JPIC 読みきかせサポーター講習会

もつともっと読みきかせの輪を広げたいとの願いから、平成十一年秋より、全国母親クラブ連絡協議会の後援を「読みきかせ」「子どもと読書のない関係」にポイントを絞った半日のカリキュラムで、平成十二年～十三年にかけては、全国およそ七〇ヶ所、延べ九千名近い参加者を得ることができます。



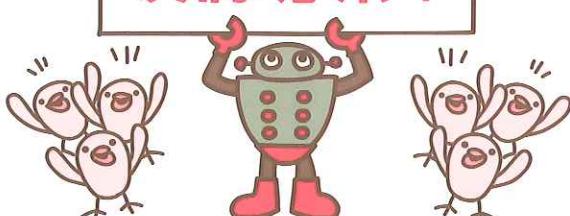
名称変更について

新年明けまして
おめでとうございます

事務局だより

新名称
『全国地域活動連絡協議会』

愛称募集!



事務局長 堀 誠

平成十四年度から「全国母親クラブ連絡協議会」の名称が、「全国地域活動連絡協議会」に変更となります。つきましては、本会にふさわしい「愛称」を付けていただきますよう募集いたします。

つぎに、十三年度からスタートした新規事業「母親クラブによる遊び場の遊具の点検および事故防止活動」につきましては、十二月二十一日締め切りにて、アンケート調査を実施いたしましたが、多数のご回答をいただき誠にありがとうございました。

特に、自治体御担当者の皆様には年末のお忙しいなかにもかかわらず、多大のご協力を賜り厚くお礼申しあげます。

さて、母親クラブは本年四月一日より名称を変更し「全国地域活動連絡協議会」として、再スタート致します。事務局一同、皆様の益々の発展をお祈り申し上げます。

毎期多くの受講希望をいたしております。直近の第一〇期でも一〇〇名の募集に対し三〇〇名近い応募がありました。平成十四年一月に第一〇期修了式を迎ますが、これで約千名の「JPIC 読書アドバイザー」が誕生します。